

## 化学・繊維

### 1. 評価対象企業（18社）

クラレ、旭化成、昭和電工、住友化学、東ソー、信越化学工業、エア・ウォーター、大陽日酸、カネカ、三井化学、JSR、三菱ケミカルホールディングス、ダイセル、積水化学工業、宇部興産、日立化成、帝人、東レ

（証券コード協議会銘柄コード順）

### 2. 評価方法

#### (1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	5	31
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	32
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	5	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	5	15
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	3	10
計		24	100

（注）評価項目の内容および配点は28頁参照

#### (2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは32名（26社）である。（29頁参照）

### 2. 評価結果

#### (1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（27頁）参照）

- ① 本年度は、**経営陣のIR姿勢等**および**説明会等**においてそれぞれ内容・配点変更1項目、**フェア・ディスクロージャー**において配点変更2項目、**コーポレート・ガバナンス関連**および**自主的な情報開示**においてそれぞれ内容変更1項目を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は73.8点（昨年度73.2点）であった。なお、総合評価点の標準偏差は7.0点（昨年度5.3点）となった。
- ② 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が75%（昨年度同率）、**説明会等**が75%（昨年度74%）、**フェア・ディスクロージャー**が84%（昨年度同率）、**コーポレート・ガバナンス関連**が68%（昨年度同率）、**自主的な情報開示**が63%（昨年度60%）と、各分野とも昨年度と大きな変動はない。**コーポレート・ガバナンス関連**と**自主的な情報開示**が他の分野に比べて低水準となっているが、この傾向は例年と変わらない。
- ③ 評価項目について見ると、全24項目のうち次の5項目が、すべての企業（ただし、(c)(e)において各1社を除く）において80%以上の得点率（評価点／配点（以下省略））となった。
  - (a) 「ホーム・ページ、説明会資料、アニュアルレポート等の英語対応がなされていますか」（平均得点率100%）
  - (b) 「ホーム・ページを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料および内容、その他対外公表資料等）を行っていますか」（平均得点率98%、得点率：100%16社・90%1社・80%1社）
  - (c) 「四半期ごとに業績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開催していますか」（平均得点率94%、得点

率：100%17社)

- (d)「投資家にとって重要と判断される事項(例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等)の開示は、遅滞なく行われていますか」(平均得点率 87%、得点率：90%3社・80%台 15社)
- (e)「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていますか」(平均得点率 83%、得点率：80%台 17社)

④ 一方、次の項目は、本年度も平均得点率が最も低い。低水準の得点率に留まっている企業において、今後一層の改善の努力が望まれる。

- ・ 「工場見学、事業部説明会、技術説明会等(アナリスト主催を含む)を実施し、かつその内容は充実していますか」(平均得点率 58%、得点率：20%台 2社・40%台 4社・50%台 2社)

- ⑤ また、昨年度の評価項目「経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか」につき、今回その質問に「情報開示の後退はありませんか」と質問を追加し、評価点を 3 点から 4 点に増加したところ、18 社中 15 社の得点率が低下し、平均得点率も 80%から 71%へと 9 ポイント低下した。
- ⑥ なお、一部の評価対象企業に対し公表情報の開示充実を望む声があったほか、昨年度に続き、経営トップがミーティングに出席し自社の状況や今後の方針を語る姿勢を評価する声が多かった。

## (2) 上位 3 企業の評価概要

### 第 1 位 三井化学(ディスクロージャー優良企業[2 回連続 2 回目]、総合評価点 86.6 点[昨年度比+5.4 点])

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等(得点率(以下省略) 90%)、説明会(85%)、コーポレート・ガバナンス関連(81%)が第 1 位、自主的情報開示が第 2 位(85%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第 2 位(89%)となり、フェア・ディスクロージャーを除く 4 つの評価分野において得点率が上昇した。また、全評価項目(24 項目)中、昨年度と比較可能な 22 項目のうち 18 項目の得点率が上昇し、総合評価点の上昇(上昇幅第 1 位)につながった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、経営陣が IR の重要性を認識し、トップミーティングなどで投資家・アナリストと対話の機会を持ち、株式市場へ正しい情報を発信し真摯に議論を行おうとする姿勢にあることなど、経営陣の IR 姿勢について高い評価となった。また、IR 部門に十分かつ正確な情報がタイムリーに集積され、担当者と有益なディスカッションができることなど、同部門の機能も高く評価された。さらに、低収益あるいは赤字の事業についても開示し、今後の改善の展望を示していることや、セグメント変更後も情報開示の継続性に配慮していることなど、IR の基本スタンスも高い評価となり、この分野全体の評価でトップとなった。
- ③ 説明会等においては、インタビューにおける補足説明が充実している点が高い評価を受けた。また、市況等の説明資料が充実していることも評価され、この分野の評価項目全てにおいて単独または同得点第 1 位の評価を受けた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、その取組姿勢のほか、ホームページにおける情報提供、電話会議のリプレイ、質疑応答の要旨の情報提供など、この分野全体について高く評価された。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、コーポレートガバナンス・コードについて進捗状況を含め説明していることが評価された。また、配当性向、KPI など重視する経営指標とその目標、それを採用する理由を的確に説明していることや、中期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況を分かりやすく説明していることなど、目標とする経営指標等も評価された。さらに、資本政策に関し十分説明されていることも評価された。
- ⑥ 自主的情報開示においては、全社的に得点率が低水準となった工場見学等の実施に関し、内外の「工場見学会」や「事業説明会」の充実した内容が高い評価を受けたほか、「統合レポート」、E-mail を利用した公開情報の周知なども評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

**第 2 位 住友化学（高水準のディスクロージャーを連続して維持している企業、総合評価点 83.9 点〔昨年度比 +4.4 点〕、昨年度第 3 位〔一昨年度第 3 位〕）**

- ① 同社は、自主的情報開示が第 1 位 (87%)、経営陣の IR 姿勢等 (85%)、コーポレート・ガバナンス関連 (79%) が第 2 位、説明会等が同得点第 2 位 (83%)、フェア・ディスクロージャーが第 4 位 (88%) となり、全ての評価分野において得点率が上昇した。また、全評価項目 (24 項目) 中、昨年度と比較可能な 22 項目のうち 17 項目の得点率が上昇し、総合評価点の上昇 (上昇幅第 2 位) につながった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、経営陣が IR の重要性を認識し、経営概況説明会で自らの言葉で今後の経営方針等を説明していることや、経営トップに加え各事業のトップと対話する機会が設けられているなど、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門に十分かつ正確な情報がタイムリーに集積され、担当者と有益なディスカッションができることなど、同部門の機能も評価された。さらに、会社にとって都合の悪い情報等についても積極的に開示し今後の改善の展望を示していることや、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮していることも評価された。
- ③ 説明会等においては、インタビューにおける補足説明が充実している点に加え、決算短信・添付資料と同時に企業分析に必要な補足資料が入手できることや、投資家の求める情報が継続性やセグメント別情報も含め十分に開示されていることが評価された。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、ホーム・ページにおける情報提供、電話会議のリプレイなどが評価された。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、コーポレートガバナンス・コードについて進捗状況を含め説明していることが評価された。また、重視する経営指標 (ROE 等) とその目標、それを採用する理由を十分に説明していることに加えて、中期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況を十分に説明していることなど、目標とする経営指標等も評価された。
- ⑥ 自主的情報開示においては、事業環境、競合の状況まで説明した「インベスターズハンドブック」の内容が充実していることや、E-mail を利用した公開情報の周知が評価された。また、全社的に得点率が低水準となった工場見学等の実施に関し、「事業説明会」や充実した内容の内外の「工場見学会」が評価され、この分野全体でトップの評価となった。

同社は 3 回連続して第 2 位または第 3 位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続して維持している企業」に選定した。

**第 3 位 旭化成（総合評価点 80.7 点〔昨年度比 +0.3 点〕、昨年度第 2 位）**

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが第 1 位 (91%)、経営陣の IR 姿勢等が第 3 位 (79%)、コーポレート・ガバナンス関連が同得点第 3 位 (77%)、説明会等 (82%)、自主的情報開示 (75%) が第 4 位となり、経営陣の IR 姿勢等を除く 4 つの評価分野において得点率が上昇した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、経営陣が IR の重要性を認識し、投資家・アナリストとの対話の機会として経営概況説明会等を設け、積極的な情報発信や意見交換を行っているほか、IR 部門への十分な人員配置など、経営陣の IR への取組姿勢が評価された。また、IR 部門に十分かつ正確な情報が、タイムリーに集積されており、担当者と有益なディスカッションができることなど、同部門の対応についても評価された。
- ③ 説明会等においては、四半期決算説明会の席上で各事業会社の経営企画担当者の追加説明が得られることや、インタビューにおける十分な補足説明が高い評価を受けた。なお、実績に関する開示がやや後退しているとの声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、その取組姿勢等のほか、説明会の動画・音声の配信に加えて、質疑応答を含む議事録が遅滞なく日本語および英語により情報提供されるなど、この分野全体について高い評価を受けた。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、中長期的な目標と関連する定性・定量情報の開示が充実していることなどが高く評価された。
- ⑥ 自主的情報開示においては、E-mail を利用した公開情報の周知が評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ 積水化学工業（総合評価点 79.1 点〔昨年度比+3.2 点〕、第 4 位〔昨年度第 7 位〕）

同社は、全ての評価分野において得点率が上昇した。また、全評価項目（24 項目）中、昨年度と比較可能な 22 項目のうち 13 項目の得点率が上昇し、総合評価点および順位の上昇（総合評価点の上昇幅第 3 位、順位の上昇幅第 1 位）につながった。特に、**自主的情報開示**の工場見学等の実施に関する評価項目において、「工場見学会」の開催などを通じて、事業への理解を深める機会を提供したことにより、昨年度比、得点率で 32 ポイント（35%から 67%へ）、評価点で 1.9 点上昇した。

以 上

## 平成29年度 ディスクロージャー評価比較総括表（化学・繊維）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(4183) 三井化学	86.6	27.9	1	27.3	1	10.7	2	12.2	1	8.5	2	1
2	(4005) 住友化学	83.9	26.3	2	26.5	2	10.6	4	11.8	2	8.7	1	3
3	(3407) 旭化成	80.7	24.5	3	26.2	4	10.9	1	11.6	3	7.5	4	2
4	(4204) 積水化学工業	79.1	24.2	5	25.5	5	10.7	2	11.6	3	7.1	6	7
5	(4004) 昭和電工	78.6	24.4	4	26.5	2	10.3	8	10.5	9	6.9	8	5
6	(4208) 宇部興産	78.5	24.0	6	25.3	7	10.5	5	10.8	7	7.9	3	6
7	(4185) JSR	76.7	23.8	7	25.5	5	10.2	9	11.6	3	5.6	12	4
8	(4188) 三菱ケミカルホールディングス	75.0	22.8	10	23.6	11	10.5	5	10.9	6	7.2	5	10
9	(3401) 帝人	74.2	23.4	8	24.4	9	10.2	9	10.7	8	5.5	14	8
10	(4042) 東ソー	73.2	23.4	8	24.5	8	9.8	13	8.8	16	6.7	9	12
11	(4202) ダイセル	72.3	22.8	10	22.9	14	10.2	9	10.3	10	6.1	10	13
12	(4217) 日立化成	72.1	22.5	12	23.6	11	9.7	14	10.2	11	6.1	10	9
13	(4088) エア・ウォーター	70.5	22.1	14	23.7	10	9.6	15	10.2	11	4.9	15	14
14	(4091) 大陽日酸	69.4	22.0	15	23.1	13	9.9	12	9.5	14	4.9	15	16
15	(3402) 東レ	68.8	20.7	16	22.4	15	10.4	7	9.7	13	5.6	12	11
16	(4063) 信越化学工業	66.7	22.3	13	22.1	16	9.1	18	6.1	18	7.1	6	17
17	(4118) カネカ	61.5	19.2	18	20.2	17	9.4	16	8.4	17	4.3	17	15
18	(3405) クラレ	61.0	19.6	17	19.1	18	9.3	17	9.5	14	3.5	18	18
	評価対象企業評価平均点	73.84	23.12		24.02		10.11		10.25		6.34		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は7.0点(昨年度5.5点)であった。

## 29年度評価項目および配点（化学・繊維）

<b>1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス</b>		配点 (31点)
(1) 経営陣のIR姿勢		
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどうか評価しますか。（IRの重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等）		8
② 経営トップが説明会またはアナリストミーティングに出席し、今後の経営方針等について有意義なディスカッションをしていますか。		8
(2) IR部門の機能		
・ IR部門に十分かつ正確な情報が、タイムリーに集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。		8
(3) IRの基本スタンス		
① 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。		3
② 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。情報開示の後退はありませんか。		4
<b>2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示</b>		配点 (32点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示		
① 決算説明会における会社側の説明は十分ですか。		8
② インタビューにおける補足説明は十分ですか。		8
(2) 説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示		
① 決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要な十分な補足資料が、TDnet経由で入手できますか。		4
② 説明会資料等において投資家が求める情報が継続性やセグメント別情報も含め十分に開示されていますか。		8
(3) 四半期情報開示		
① 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。		3
② 四半期ごとに業績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開催していますか。 [開催あり：1点 開催なし：0点]		1
<b>3. フェア・ディスクロージャー</b>		配点 (12点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢		
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。		4
② 投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等）の開示は、遅滞なく行われていますか。		4
(2) ホームページにおける情報提供		
・ ホームページを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料および内容、その他対外公表資料等）を行っていますか。		1
(3) 説明会または電話会議のリプレイ		
・ 説明会または電話会議のリプレイ（質疑応答、議事録を含む）は、速やかに電話やウェブキャストで視聴等ができますか。		2
(4) 外国人投資家向け情報提供		
・ ホームページ、説明会資料、アニュアルレポート等の英語対応がなされていますか。		1
<b>4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示</b>		配点 (15点)
(1) コーポレートガバナンス・コード		
・ コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分な説明がなされていますか。		2
(2) 目標とする経営指標等		
① 重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE等）とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていますか。		3
② 中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が、十分に説明されていますか。		4
(3) 資本政策、株主還元策の開示		
① 資本政策（資金調達、資本コスト、グループ持合政策、優先株、金庫株）に関し十分な説明がされていますか。		3
② 配当政策・自社株買いなど株主還元策について積極的に、十分に説明していますか。		3
<b>5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示</b>		配点 (10点)
① 工場見学、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していますか。 [過去1年間を目安に評価]		6
② ファクトブック、アニュアルレポート、環境報告書等の内容は充実していますか。		2
③ 開示された公開情報について、E-mail等を利用して能動的かつ適切に周知していますか。		2

化学・繊維専門部会委員

部会長	竹内 忍	SMBC 日興証券
部会長代理	山田 幹也	みずほ証券
	岡寄 茂樹	野村證券
	澤砥 正美	SBI 証券
	野口 英彦	アセットマネジメント One
	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券

評価実施アナリスト（32名）

石井 宏	三菱 UFJ 国際投信	竹内 忍	SMBC 日興証券
板倉 充知	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント	坪井 暁	ニッセイ アセット マネジメント
伊藤 健悟	QUICK	陶 志遠	アライアンス・ハーン・スタイン
上迫 和也	三井住友信託銀行	仲田 育弘	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
榎本 尚志	メリル Lynch 日本証券	中原 周一	東海東京調査センター
大藤 修義	アセットマネジメント One	夏目 宏之	東京海上アセットマネジメント
岡寄 茂樹	野村證券	西脇 秀敏	明治安田アセットマネジメント
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	野口 英彦	アセットマネジメント One
河井 啓朗	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	福島 大輔	野村證券
木村 光宏	野村アセットマネジメント	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
桑原 明貴子	メリル Lynch 日本証券	八掛 達格	三井住友アセットマネジメント
國分 希	りそな銀行	山田 幹也	みずほ証券
齋藤 達哉	三井住友アセットマネジメント	吉田 篤	みずほ証券
坂森 真裕子	大和住銀投信投資顧問	渡辺 一茂	日興アセットマネジメント
澤砥 正美	SBI 証券	渡辺 勇仁	大和証券投資信託委託
高橋 豊	極東証券経済研究所	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。